

ダゾメット粉粒剤 ガスタード微粒剤	取扱メーカー： クミカ [*] 、一農 原体メーカー： カネショウ
成分： ダゾメット〔PRTR・1種〕……………96.5%	性状： 類白色微粒 毒性： 劇物 消除法： ——

【品目特性】……………

- 広範囲の土壤病害やセンチュウ、雑草の発芽阻止に優れた防除効果を示す。
- 微粒剤なので散粒機又は手で簡単に散布できる。
- 刺激性の臭いが少ないので、作業者は比較的安全して使用できる。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 処理する前に耕起整地する。
- 土壤中の水分によって分解し、ガスを発生することによって効果を発揮するもので、土壌の種類、水分含量、温度等により効果にフレがあるので、以下のことに十分留意する。
 - 地温が10℃以下の時には使用しない。
 - 砂質土壌や乾燥した土壌で使用する場合は、丁寧に混和した後灌水して適度の水分を与えてから被覆する。
 - 次の場合はガスの拡散が遅いので被覆期間を適宜延長する。
 - ア、重粘土質の土壌の場合
 - イ、降雨などにより土壌水分が多い場合
 - ウ、地温が低い（15℃以下）場合
- 全面処理する場合、深さ15～25cmに土壌と十分に混和する。やまのいもに使用する場合は、深さ50～60cmに土壌と十分に混和する。混和後ビニール等で被覆又は鎮圧散水してガスの蒸散を防ぐ。7～14日後に被覆を除去してガス抜きを行う。
- 苗立枯病又は芝の目土用土に処理する場合、十分に混和後ビニール等で被覆し、7～14日後に被覆を除去してガス抜きを行う。
- りんご、桑、なし及びぶどうに使用する場合は、

被害抹を抜き取った跡地の周辺部を含めてできるだけ広めに散布し、深さ25～40cm（りんごの場合は深さ40cm）に土壌と均一に混和する。処理20日後に被覆を除去して耕起し、翌春に植付ける。また、りんご、なし、ぶどうでは、植え付けた年は果実を収穫しない。

●は種又は定植の20～10日前に使用する場合は、地温20℃以上の条件に限って使用する。

●葉たまねぎ（苗床）及びたまねぎのは種14日前までに使用する場合は、均一に散布後、レーキ等で浅く（2～3cm）混和し、ビニール等で被覆する。7日後に被覆を除去し、さらにその後7日間放置し、は種前にレーキ等で浅く整地によるガス抜きを行う。

●たまねぎのべと病は感染力が強く拡がりやすい病害のため、散布剤との体系処理を行い、感染防除に努める。

●たまねぎに秋期に使用する場合は、均一に散布後、十分混和し、ビニール等で被覆する。約20日後に被覆を除去してガス抜きを行う。は種は翌春に行う。

●てんさいに秋期に使用する場合は、均一に散布後、十分混和し、ビニール等で被覆する。約20日後にビニール等被覆を除去してガス抜きを行う。は種は翌春に行う。

●たばこに使用する場合は、次のことに注意する。

○秋期に使用する場合は、均一に散布後、十分混和する。混和後鎮圧してガスの蒸散を防ぎ翌春耕起した後、植付ける。

○春期に使用する場合は、散布後、十分混和する。混和後そのまま放置し、2週間後に畦立てをし、その2日後にビニール等で被覆する。さらに2週間後に植付ける。

〈発芽テスト法〉

●ガスタードを処理した土（1圃場2～3カ所で

約10cmの深さから採る）と無処理の土を、それぞれ別の密封できる広口ビン（コーヒーのあきビンなど）に半分ほど詰める。

●わりばしなどに脱脂綿をまきつけ、湿らせてだいいこん、レタスなどの種子をまぶしてビンの中に立て密封する。

●縁側などの暖かいところに2～3日間置き、発芽状態を観察する。

●発芽状態に差がなければ、は種、植付けができる。

●処理土壌で発芽状態が悪い時は、葉害が出るので、再度圃場のガス抜きをし発芽テストをする。

【薬効・薬害等の注意】……………

●ガス抜きが不十分であると薬害が生じるおそれがあるので、少なくとも2回は耕起によるガス抜きを実施する。なお、ガス拡散の遅い条件の場合は特に丁寧に行う。

●センチュウが多発する条件、或いはトマト、なすではセンチュウ類に対する効果が劣る場合があるので、センチュウを防除対象とする場合には、他の防除方法と併用して使用する。

●作物に直接ふれると薬害を生じるので、周辺に作物がある場合にはかからないように十分間隔をおいて薬剤を処理する。

●温室やビニールハウスなどの施設内に作物がある場合、薬害を生じるおそれがあるので使用しない。

●ごぼうに使用する場合は生育抑制・岐根等の薬害を生じるおそれがあるので、処理からは種までの期間を十分とり、ガス抜きを丁寧に行い、発芽テスト等で安全を確認のうえ、は種する。

●しょうが及び葉しょうがの根茎腐敗病に対しては、多発生条件では効果が不十分な場合があるので注意する。

●芝の目土に処理する場合、目土に含まれる雑草種子を殺す目的で目土を処理するものであるので除草剤として、芝生に直接散布する事のないように注意する。

●共通注意事項8. 適用作物群に関する注意事項を参照。

●適用作物の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………

●水に触れると有毒ガスを発生するので保管、取扱いに注意する。

●作業に際してはガスに暴露しないよう風向きなどを十分配慮する。

●作業中及びくん蒸中の圃場などへ小児など作業に関係のないものや、家畜、家禽が立ち入らないよう十分注意する。

●住宅地付近での使用に当っては、ガスによる危害の発生防止に十分配慮し、特に住宅に隣接する圃場では使用しない。

●ミツバチの巣箱周辺での使用はさける。

●魚類、甲殻類、藻類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用時は注意。

●散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。



【適用と使用法】……………

作物名	適用病害虫・雑草名	10 a 当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダゾメットを 含む農業の 総使用回数
キャベツ	苗立枯病（リゾクトニア菌） 株腐病 萎黄病 パーティシリウム萎凋病	20～ 30 kg	は種又は 定植21日前 まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
はくさい	根こぶ病 ネコブセンチュウ 一年生雑草					
非結球メキャベツ	尻腐病 根くびれ病 黄化病 萎黄病 一年生雑草		定植21日前 まで			

作物名	適用病害虫・雑草名	10 a 当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダゾメットを 含む農薬の 総使用回数
だいこん	ネグサレセンチュウ	10～ 20 kg	は種21日前 まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
	バーティシリウム黒点病 根こぶ病 萎黄病 一年生雑草	20～ 30 kg				
かぶ	バーティシリウム黒点病 根こぶ病 萎黄病 一年生雑草		は種又は 定植21日前 まで			
非結球あぶら な科葉菜類 (こまつな、 しろな、 チンゲンサイ、 ひろしまな、 みずな、 なばな類を除く)	根こぶ病	30 kg	は種14日前 まで			
	一年生雑草	20～ 30 kg				
こまつな	萎黄病 根こぶ病		は種10日前 まで			
しろな	一年生雑草	は種21日前 まで				
ブロッコリー カリフラワー	テンサイシストセンチュウ	30 kg	は種又は 定植21日前 まで			
なばな類 チンゲンサイ	根こぶ病 一年生雑草	20～ 30 kg				
		20 kg	は種又は 定植14日前 まで			
ひろしまな		30 kg	は種又は 定植12日前 まで			
みずな	立枯病（ビシウム菌） 根こぶ病 一年生雑草		は種12日前 まで			
はつかだいこん	一年生雑草	20 kg	は種35日前 まで			
きゅうり	苗立枯病（ビシウム菌） 苗立枯病（リゾクトニア菌）	200～400 g／m ³	は種又は 定植21日前 まで		土壌に本剤の所定量を加え十分混和する。	
	つる割病 半身萎凋病 白絹病 一年生雑草	20～ 30 kg				本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。
かぼちゃ	苗立枯病（リゾクトニア菌） フザリウム立枯病 一年生雑草					
メロン	黒点根腐病 つる割病 半身萎凋病 黒変根腐症 白絹病 一年生雑草					
	紅色根腐病				30 kg	
	苗立枯病（リゾクトニア菌）	200～400 g／m ³			土壌に本剤の所定量を加え十分混和する。	

作物名	適用病害虫・雑草名	10 a 当たり 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダゾメットを 含む農薬の 総使用回数		
す い か	苗立枯病(リゾクトニア菌)	200～400 g / m ³	は種又は 定植21日前 まで	1 回	土壌に本剤の所定量を加え十分混和する。	1 回		
	つる割病 白絹病 一年生雑草	20～ 30 kg			本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。			
に が う り	つる割病 ネコブセンチュウ 一年生雑草	200～300 g / m ³			土壌に本剤の所定量を加え十分混和する。			
ト マ ト ミニトマト	苗立枯病(リゾクトニア菌)	200～300 g / m ³			は種又は 定植21日前 まで		1 回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。
	萎凋病 褐色根腐病 白絹病 根腐萎凋病 半身萎凋病 ネコブセンチュウ 一年生雑草	20～ 30 kg						
	紅色根腐病	30 kg						
	青枯病	30～ 60 kg						
	青枯病	30 kg						
な す	青枯病	30 kg			は種又は 定植21日前 まで		1 回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。
	苗立枯病(リゾクトニア菌) 半身萎凋病 白絹病 ネコブセンチュウ 一年生雑草	20～ 30 kg						
	苗立枯病(リゾクトニア菌) 半身萎凋病 萎凋病 青枯病 白絹病 一年生雑草	30 kg						
ばれいしょ	そうか病 粉状そうか病 黒あざ病	20～ 30 kg	植付21日前 まで	は種又は 定植21日前 まで	1 回			
とうがらし類	萎凋病 一年生雑草	30 kg	定植21日前 まで					
	苗立枯病(リゾクトニア菌) 疫病 青枯病							
ね ぎ	黒腐菌核病	30～ 60 kg	は種又は 定植14日前 まで	1 回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。			
	紅色根腐病 ネギハモグリバエ	30 kg						
	白絹病 小菌核腐敗病 萎凋病 根腐萎凋病 ネコブセンチュウ	20～ 30 kg						
	苗立枯病(リゾクトニア菌) 一年生雑草					は種又は 定植21日前 まで		
	苗立枯病(リゾクトニア菌) 一年生雑草							

作物名	適用病害虫・雑草名	10 a 当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダゾメットを 含む農薬の 総使用回数
たまねぎ	黒腐菌核病	30～ 60 kg	は種又は 定植21日前 まで	1 回	本剤の所定量を均一に散 布して土壌と混和する。	1 回
	紅色根腐病	30 kg				
	苗立枯病	20～ 40 kg				
	乾腐病 白絹病 ネコブセンチュウ 一年生雑草	20～ 30 kg	秋 期 (翌春は種)			
	黒穂病 一年生雑草					
	べと病	20 kg				
	葉たまねぎ (苗床)	一年生雑草	10～ 20 kg		は種14日前 まで	
にんにく	紅色根腐病 白絹病 イモグサレセンチュウ 一年生雑草	30 kg	植付28日前 まで		本剤の所定量を均一に散 布して土壌と混和する。	
	らっきょう		根腐病 乾腐病 ネコブセンチュウ 一年生雑草			
にら			乾腐病 紅色根腐病 白絹病			
	一年生雑草					
にんじん	萎凋病 根腐病 しみ腐病 乾腐病 白絹病 ネコブセンチュウ 一年生雑草	20～ 30 kg	は種又は 定植21日前 まで			
	バセリ					
セルリー	萎黄病 一年生雑草	は種10日前 まで				
あしたば	苗立枯病(リゾクトニア菌) 一年生雑草		は種21日前 まで			
しゅんぎく	萎凋病 一年生雑草	20 kg	は種21日前 まで			
ごぼう 葉ごぼう	萎凋病 黒あざ病 一年生雑草	20～ 30 kg	は種28日前 まで			
もりあざみ	黒あざ病 半身萎凋病 一年生雑草	30 kg	は種21日前 まで			

作物名	適用病害虫・雑草名	10 a 当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダゾメットを 含む農薬の 総使用回数
レタス	ネグサレセンチュウ	30 kg	は種又は 定植14日前 まで	1回	本剤の所定量を均一に散 布して土壌と混和する。	1回
非結球レタス	すそ枯病 白絹病 一年生雑草	20～ 30 kg				
	根腐病					
食用ぎく	萎凋病 半身萎凋病 白絹病 センチュウ類 (ハガレセンチュウを除く) 一年生雑草	30 kg				
	青枯病					
ふき	半身萎凋病 白絹病 一年生雑草	30 kg				
みつば	立枯病 一年生雑草	20 kg	は種21日前 まで			
豆類（未成熟、 但し、えだまめ、 実えんどう、 さやえんどう、 さやいんげん、 未成熟そらまめ を除く）	苗立枯病(リゾクトニア菌) 茎腐病 一年生雑草	30 kg				
さやいんげん	苗立枯病(リゾクトニア菌) 葉腐病 白絹病 一年生雑草	20～ 30 kg	は種又は 定植21日前 まで			
えだまめ	ダイズシストセンチュウ	30 kg	は種21日前 又は 定植45日前 まで			
未成熟そらまめ	苗立枯病(リゾクトニア菌) 茎腐病 えそモザイク病 一年生雑草					
さやえんどう 実えんどう	苗立枯病(リゾクトニア菌) 茎腐病 一年生雑草	20～ 30 kg	は種又は 定植21日前 まで			
かんしょ	紫紋羽病 つる割病 白絹病 ネコブセンチュウ 一年生雑草		植付21日前 まで			
こんにゃく	白絹病 乾腐病	20～ 60 kg				
	根腐病 一年生雑草					
さといも ざといも（葉柄）	乾腐病 ネグサレセンチュウ 一年生雑草	20～ 30 kg	定植21日前 まで			
しょうが	根茎腐敗病	30～ 60 kg				
	一年生雑草	20～ 30 kg				

作物名	適用病害虫・雑草名	10 a 当たり 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダゾメットを 含む農薬の 総使用回数	
葉しょうが	根茎腐敗病	30 kg	定植21日前 まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	一年生雑草	20～30 kg					
みょうが(花穂) みょうが(茎葉)	立枯症 一年生雑草	30 kg	定植42日前 まで				
い　ち　ご	萎黄病 萎凋病 炭疽病 芽枯病 一年生雑草	20～30 kg	仮植又は 定植21日前 まで				
	青枯病 疫病	30 kg					
ほうれんそう	立枯病 萎凋病 株腐病 根腐病 ホウレンソウケナガコナダニ 一年生雑草	20～30 kg	は種10日前 まで				
てん　さい	叢根病 苗立枯病	200～400 g／m ³	秋　期 (翌春は種)				
やまのいも	根腐病 褐色腐敗病 一年生雑草	20～30 kg	植付21日前 まで				
つるむらさき	ネコブセンチュウ 一年生雑草		定植21日前 まで				
モロヘイヤ		30 kg	定植30日前 まで				
し　　　そ	青枯病 一年生雑草		は種又は 定植14日前 まで				
チャービル	一年生雑草	20 kg	は種42日前 まで				
な　　し ぶ　　ど　　う	白紋羽病	100 g／m ²	夏期～秋期				被害株跡地に本剤の所定量を均一に散布して土壌と十分混和する。
り　　ん　　ご	紫紋羽病 白紋羽病	50～100 g ／m ²					
花　き　類・ 観　葉　植　物	苗立枯病(リゾクトニア菌) 株腐病 球根腐敗病 首腐病 半身萎凋病 萎凋病 萎黄病 白絹病 立枯病 根頭がんしゅ病 ネコブセンチュウ	20～30 kg	は種又は 植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。			
	一年生雑草	20～60 kg					
	青枯病	30 kg					

作物名	適用病害虫・雑草名	10 a 当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダゾメットを 含む農薬の 総使用回数
カーネーション	萎凋細菌病	20～ 30 kg	は種又は 植付前	1 回	本剤の所定量を均一に散 布して土壌と混和する。	1 回
き く	センチュウ類 (ハガレセンチュウを除く)					
ス ト ッ ク	苗腐病	30～ 40 kg	植付前			
	萎凋病					
ぼ た ん しゃくやく	根黒斑病	20～ 30 kg	は種又は 植付前			
スターチス	萎凋細菌病					
グロリオサ	紅色根腐病					
スイトピー	腰折病					
さくらそう	軟腐病					
トルコギキョウ	根腐病					
パンジー						
アイランドビー	萎縮病					
せんりょう	立枯病					
	一年生雑草					
つつじ 類	センチュウ類					
	一年生雑草					
樹 木 類 (苗木)	一年生雑草					
た ば こ	角斑病	10～ 20 kg	秋期 (翌春植付)			
	野火病					
	センチュウ類	20～ 30 kg				
	立枯病					
	黒根病					
疫病	5～ 10 kg	春期 (植付前)				
一年生雑草						
センチュウ類						
芝	一年生雑草	目土用土 1m ³ 当り 100～ 200g	雑草発生前		土壌に本剤の所定量を加 え十分混和する。	
		30 kg	は種又は定植 21 日前まで			
桑	紫紋羽病 白紋羽病	1 株当り (4m ²) 400 ～600 g	夏期～秋期	被害株跡地に本剤の所定 量を均一に散布して土壌 と十分混和する。		

作物名	使用目的	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダゾメットを含む 農業の総使用回数
樹木類	定植ほ場の 南根腐病菌の 密度低減	100g/m ²	定植前	1 回	被害株跡地に本剤の所定量を均一に散布して土壌と十分混和する。	1 回